準母音的子音における発音の特徴

山田耕筰の考える日本歌曲の歌唱実践に向けて１

林　　満理子

Phonetic Characteristics of “QUASI-VOWEL” Consonants（JUN BOIN TEKI SHIIN）

HAYASHI Mariko

（Received September 25, 2015）

はじめに

本稿は山田耕筰の考える準母音的子音にあてはまる日本語を抽出し、調音の場所と調音法の観点から分析を行い、その発音上の特徴を明らかにするものである。

「言葉の組立」：純母音、純子音、準母音的子音

山田耕筰は作曲家として名が知られているが、特に日本歌曲の分野での業績が群を抜いている。山田は東京音楽学校（現・東京藝術大学音楽学部）の声楽部を卒業しており、発声法や発音法や演唱法について独自の見解をもっていた。そのため、たんに声楽曲を作るだけでなく、様々な機会を通じて日本歌曲の歌い方を講じていた。そしてその集大成と考えられるのが、1950年に出版された『山田耕筰名歌曲全集』第1巻の巻末に書かれている「日本歌曲とその基本的な演唱・演奏法に就いて」である。その内容は下記の10項目に渡っている。

- 歌曲（リート）に就いての私見
- 發聲と發音
- 聲樂語としての日本語
- 日本的歌唱法
- 不快なスラーやポルタメント
- 滑らかな唱ひ方（レガート・スィンギング）
- 二音以上に跨る一綴音の唱ひ方
- 聲樂に於ける發音
- 言葉の組立
- 音の强弱と口形

この10項目の中で特に詳細に書かれているのが「言葉の組立」である。母音と子音の関係について以下のように述べている。

> 母音とは、では、如何なる特性を持つか。それは、發音と同時に一定の音型をもち、その形は、いかに長く發聲しようとも絶對に、その質を變へない音を言ふのである。

では、子音とはどういふものか。子音とは發音と同時に消え去るもので、ながく引き延ばし得ぬ音を言ふのである。それを延ばすためには母音の助けを絶對必要とする。

母音と子音の関係はまた、樂音と騒音の関係に較べることもできる。母音も樂音も、共に永續し得る音であり、ともに變質しないものである。それに反し、子音と騒音は瞬時に消え去る音であり、從つて變質するというような長時の生命をもつてゐないものである。

また、子音について以下のように解説している。

普通、子音は、母音を除く一切の音を指しての謂ひである。しかし、聲樂發音學（ゲザング・フォネティーク）では、この子音を二つに分けてゐる。一は純粹子音他は準母音的子音がそれである。

純粹な子音とはP・B・T・D・K・Q・Gといふやうな繼續絶對不能の子音を言ふのである。これらの子音は、恰も卓上に一撃を加へた場合に起る騒音と同様、瞬時に消滅する音である。

それに反しC・S・Z・F・H・V・W・G・J・L・R・M・N等の子音は母音と均しく、長時の發聲に堪へ、しかも變質しない音である。即ち母音と同じやうな性格を持つてゐるので、準母音的子音と呼ばれるのである。

以上から母音と子音を分類したものが次の表１である。

純母音	純子音	準母音的子音
A.	B.　P.	C. F. J. L. M. Y (yes)
E.	D.　T.	S. H. G. R. N.
I.	G. K. (Q)	Z. V.
O.	(Burg)	W.　ch.(ich) g.(ewig)
U.		sh.(push) sch.(schnitt)

表１　山田耕筰の提示する純母音と純子音と準母音的子音
（『山田耕筰名歌曲全集　第１巻』より転載）

純母音、純子音、準母音的子音に該当する日本語

山田耕筰は純母音、純子音、準母音的子音を、アルファベットを用いて解説しているが、本稿では今後、日本歌曲の歌唱分析に繋げたいと考えているため、これら三種に該当する日本語を明確にする必要がある[1]。なお、Gに関しては純子音と準母音的子音の両方に記載があるが、純子音のＧは破裂音、準母音的子音のGは鼻濁音である。ら行に関してはLで発音される場合は語頭や歯茎音nの後、Rで発音される場合は母音に挟まれた場合もしくは巻き舌で発音した場合である。助詞の「を」「は」「へ」はそれぞれo、wa、eと発音されるため、「を」は「お」へ、「は」は「わ」へ、「へ」は「え」へ分類する。

[1]表中の「純子音」は文中では「純粹な子音」「純粹子音」と表現されることもあるが、本稿では「純子音」で統一している。

表２　山田耕筰の提示する純母音、純子音、準母音的子音とそれらに該当する日本語

純母音	該当する日本語
A	あ
E	え・へ
I	い
O	お・を
U	う

純子音	該当する日本語
B	ば　ぶ、　べ　ぼ びゃ　び　びゅ　びょ
D	だ　で　ど
G	が　ぐ　げ　ご ぎゃ　ぎ　ぎゅ　ぎょ
K	か　く　け　こ きゃ　き　きゅ　きょ
P	ぱ　ぷ　ぺ　ぽ ぴゃ　ぴ　ぴゅ　ぴょ
T	た　て　と
(Q)	――――

準母音的子音	該当する日本語
C	ちゃ　ち　ちゅ　ちょ
S	さ　す　せ　そ しゃ　し　しゅ　しょ
Z	ざ　ず　ぜ　ぞ
F	――――
H	は　へ　ほ ひゃ　ひ　ひゅ　ひょ ふ
V	――――
W	わ　は
J	じゃ　じ　じゅ　じょ ぢゃ　ぢ　ぢゅ　ぢょ
G	が　ぐ　げ　ご ぎゃ　ぎ　ぎゅ　ぎょ
L	ら　り　る　れ　ろ
R	ら　り　る　れ　ろ りゃ　りゅ　りょ
M	ま　む　め　も みゃ　み　みゅ　みょ ん
N	な　ぬ　ね　の にゃ　に　にゅ　にょ ん
Y(yes)	や　ゆ　よ

山田耕筰の提示する純母音と純子音と準母音的子音に該当する日本語が明らかになったが、これらがどのような基準で分類されているのかを明確にする必要がある。

調音の場所と調音法からの分析

純母音に関しては一般的な日本語／アルファベットの関係で理解できるが、純子音と準母音的子音に関してはそれだけでは把握しきれない。そのため調音の場所と調音法の観点から分析してみたい。

表３　山田耕筰の提示する純子音・準母音的子音の調音の場所と調音法

純子音	該当する日本語	調音の場所と調音法
B	ば　ぶ、　べ　ぼ びゃ　び　びゅ　びょ	有声両唇破裂音
D	だ　で　ど	有声歯茎破裂音
G	が　ぐ　げ　ご ぎゃ　ぎ　ぎゅ　ぎょ	有声軟口蓋破裂音
K	か　く　け　こ きゃ　き　きゅ　きょ	無声軟口蓋破裂音
P	ぱ　ぷ　ぺ　ぽ ぴゃ　ぴ　ぴゅ　ぴょ	無声両唇破裂音
T.	た　て　と	無声歯茎破裂音
(Q)	――――	

準母音的子音	該当する日本語	調音の場所と調音法
C	ちゃ　ち　ちゅ　ちょ	無声歯茎硬口蓋破擦音
S	さ　す　せ　そ しゃ　し　しゅ　しょ	無声歯茎摩擦音 無声歯茎硬口蓋摩擦音
Z	ざ　ず　ぜ　ぞ	有声歯茎摩擦音
F	――――	
H	は　へ　ほ ひゃ　ひ　ひゅ　ひょ ふ	無声声門摩擦音 無声硬口蓋摩擦音 無声両唇摩擦音
V	――――	
W	わ　は	有声両唇または軟口蓋接近音半母音
J	じゃ　じ　じゅ　じょ	有声歯茎硬口蓋摩擦音
G	が　ぐ　げ　ご ぎゃ　ぎ　ぎゅ　ぎょ	有声硬口蓋鼻音
L	ら　り　る　れ　ろ	有声歯茎側面音
R	ら　り　る　れ　ろ りゃ　りゅ　りょ	有声歯茎弾き音、有声歯茎ふるえ音
M	ま　む　め　も みゃ　み　みゅ　みょ	有声両唇鼻音

	ん[2]	有声両唇鼻音
N	な　ぬ　ね　の にゃ　に　にゅ　にょ ん	有声歯茎鼻音 有声歯茎硬口蓋鼻音 有声鼻音・有声鼻母音[3]
Y(yes)	や　ゆ　よ	有声硬口蓋接近音半母音

上記の分析から山田耕筰の分類する純子音と準母音的子音には下記のような発音上の特徴があることが明らかになった。

表４　山田耕筰の提示する純子音と準母音的子音の発音上の特徴

純子音	該当する日本語	発音上の特徴
B D G	ば行 だ・で・ど が行	有声　両唇・歯茎・軟口蓋での破裂音
K	か行	無声　軟口蓋での破裂音
P T	ぱ行 た・て・と	無声　両唇・歯茎・硬口蓋・口蓋垂での破裂音

準母音的子音	該当する日本語	発音上の特徴
C S Z	ちゃ・ち・ちゅ・ちょ さ行 ざ・ず・ぜ・ぞ	無声と有声　歯茎と硬口蓋での破擦音と摩擦音
H W	は行 わ　は	無声　声門・硬口蓋・両唇での摩擦音 有声　両唇・軟口蓋接近音　半母音
J G	じゃ　じ　じゅ　じょ が　ぐ　げ　ご ぎゃ　ぎ　ぎゅ　ぎょ	有声　歯茎硬口蓋での摩擦音と破擦音 有声　硬口蓋鼻音
L R	ら　り　る　れ　ろ ら　り　る　れ　ろ りゃ　りゅ　りょ	有声　歯茎での側面音、弾き音、ふるえ音
M N	ま行・ん な行・ん	有声　両唇・歯茎・歯茎硬口蓋での鼻音と有声鼻音・有声鼻母音
Y	や　ゆ　よ	有声　硬口蓋接近音　半母音

[2]後続音がぱ行、ば行、ま行の場合。
[3]後続音によって歯茎鼻音、歯茎口蓋鼻音、軟口蓋鼻音、口蓋垂鼻音、鼻母音に変化する。

以上が山田の提示する準母音的子音であるが、すべてを網羅しているわけではない。D、TS、DZが抜け落ちている。

「ぢ　dji」（有声歯茎硬口蓋破擦音）と「じ　ji」（有声歯茎硬口蓋摩擦音）、「ず　zu」（有声歯茎摩擦音）と「づ　dzu」（有声歯茎破擦音）に関してはアルファベット表記が異なり、調音法が違っている。『日本語音声学のしくみ』によると発音上は同じとしている[4]が、歌う際はテンポが大変速い場合を除いて子音の発音は区別されているのが通常である。濁音は清音を有声化する[5]ので「ぢ　dji」は「ち　chi」が分類されているC・S・Zのグループへ入れることができる。同じように「づ　dzu」は「つ　tsu」（無声歯茎破擦音）と同じグループに入る。ら行の子音に関して母音間では弾き音となり、舌先が歯茎に２回触れるとふるえ音となる。また語頭においては調音の場所は弾き音と同じであるものの、接触時間が長くなることから、町田の意見を参考にふるえ音と弾き音はRに、側面音はLに分けた[6]。よって準母音的子音には持続性のあるLの側面音が該当すると言える。これらを補足して発音上の特徴を示したたものが下記の表である。

表５　補足した準母音的子音の発音上の特徴

準母音的子音	該当する日本語	発音上の特徴
C S Z D TS DZ	ちゃ・ち・ちゅ・ちょ さ行 ざ・ず・ぜ・ぞ ぢゃ・ぢ・ぢゅ・ぢょ つ づ	無声と有声　歯茎と硬口蓋での破擦音と摩擦音
H W	は行 わ　は	無声　声門・硬口蓋・両唇での摩擦音 有声　両唇・軟口蓋接近音　半母音
J G	じゃ　じ　じゅ　じょ が　ぐ　げ　ご ぎゃ　ぎ　ぎゅ　ぎょ	有声　歯茎硬口蓋での摩擦音と破擦音 有声　硬口蓋鼻音
L	ら　り　る　れ　ろ	有声　歯茎での側面音
M N	ま行・ん な行・ん	有声　両唇・歯茎・歯茎硬口蓋での鼻音と有声鼻音・有声鼻母音
Y	や　ゆ　よ	有声　硬口蓋接近音　半母音

以上から、準母音的子音に分類されている音の種類は、破擦音、摩擦音、半母音、鼻音、側面音、鼻母音、であることが分かった。

---

[4] 町田健『日本語音声学のしくみ』（シリーズ・日本語のしくみを探る２）東京：研究社　2003年 pp.58-60

[5] 「清音と濁音の区別があるのは『カサタハ』の行だけで、対応する濁音符『゛』のついた『ガザダバ』の行があります」（町田健『日本語音声学のしくみ』　東京：研究社　2003年　p.20）

[6] 町田健『日本語音声学のしくみ』（シリーズ・日本語のしくみを探る２）東京：研究社　2003年　p.80

準母音的子音の発音上の特徴

山田は準母音的子音を「長時の發聲に堪へ、しかも變質しない音」と説明しているが、どのような発音上の特徴がそれを可能とするのか、６つの音の特徴を説明し明らかにしたい。

これら６つの音は文献㋐㋑㋒㋓において、次のように説明されている。

㋐松村明　2006年　『大辞林第三版』三省堂
㋑松村明　2006年　『大辞林第三版』三省堂、特別ページ
㋒斎藤純男　2014年　『日本語音声学入門』改訂版　三省堂
㋓高見澤孟　2015年　『新・はじめての日本語教育　基本用語辞典』株式会社アスク出版

①破擦音	・破裂音を伴った摩擦音。ある調音点での閉鎖が解放されると同時に、同一調音点で摩擦音が行われ、その連続で一つの単音とみなされる音。（㋐p.2026） ・音声器官を一時閉鎖した後、徐々に放出して、摩擦を生じさせた音。破裂音と摩擦音の組み合わさった音。（㋑p.46） ・破裂音の閉鎖が解放されるときは、完全な閉鎖から広く開くまでの途中の段階として当然摩擦が起きる程度のせばめの状態が存在する。破裂後、調音器官の離れるスピードが速いと摩擦的な音は出る暇がなく聞こえないが、そのスピードがゆっくりだと途中の段階で破裂のすぐ後に摩擦音が伴って聞こえる。そのような現象を破擦化という。（㋒p.65） ・呼気を完全に止めてから徐々に開放して作る音。破裂音と摩擦音が一つの音として同時に出される音。（㋓p.73）
②摩擦音	・調音方法による子音の分類の一。調音器官を接近させて呼気の通路に著しいせばめを作り、そこを呼気が通過するときに生じる噪音。（㋐p.2389） ・音声器官に狭めをつくり、そこを通る気流との間に摩擦を生じさせて発する音。（㋑p.46） ・声門や口腔内のある部分を狭め、そこに呼気を通し、その部分と呼気の摩擦でできる音。（㋓p73）
③半母音	・調音の仕方は母音に近いが、子音的性質を有する音。弱い有声の摩擦音で、単独で音節を成すことがない。（㋐p.2098） ・母音と同じ性質であるが、音節の末尾に位置するのではなく、母音へ移行する中間過程で起こる動きによって生じる音。（㋑p.46） ・母音と子音の中間的な性格を持つ音。ヤ行やワ行の子音の［j］［w］を指すことが多い。持続時間が短く、すぐに母音へ移っていく。単独では現れず、常に母音を伴うので、半母音とも呼ばれる。また、子音から母音へのつなぎの役割をするので、わたり音とも呼ばれる。（㋓p76）
④鼻音	・鼻にかかった音。音声学で、呼気が鼻腔を通り、鼻腔の共鳴を伴う有声子音をいう。（㋐p.2106） ・口蓋垂を垂れ下げて呼気を鼻むろに流すことで発する音。（㋑p.46） ・呼気を鼻腔に通して作る音。（㋓p73）

⑤側面音	・呼気の通路の中央部をしっかりと閉鎖して、舌の両側または片側から呼気を通す調音法によって形成される言語音。（㋑p.46） ・口腔の一部に舌を付けたまま舌の両脇から呼気を通して作る音。英語の［l］などの音。（㋓p73）
⑥鼻母音	・呼気が鼻腔へも抜けて、鼻腔の共鳴を伴う母音。（㋐p.2150） ・母音の調音の際に口蓋帆が下がると空気が同時に鼻腔にも抜け、鼻音化が起きる。鼻音化された母音を鼻母音と呼ぶ。（㋒pp.81-82） ・鼻音化[7]された母音のこと。鼻音に挟まれた母音も鼻音化されることがある。（㋓p76）

上記の①から⑥を発音上の共通点（下線部参照）に基づいて分類すると次のようになる。

A．①破擦音、②摩擦音、③半母音。Aで共通しているのは、調音の際に摩擦が生じていることで、このことからこれらを「摩擦音系」と括ることができる。
B．④鼻音、⑥鼻母音。Bでは呼気が鼻腔を通ることが共通していることから「鼻音系」とまとめられる。
C．⑤側面音。Cは⑤の側面音のみであるので、そのまま「側面音系」とする。

以上のことから山田耕筰の言う準母音的子音には発音上「摩擦音系（A)」「鼻音系（B)」「側面音系（C)」の３種類があり、それゆえに「長時の發聲に堪へ、しかも變質しない音」が可能になっていることが明らかになった。今後はこれら３系統を考察に加えつつ日本歌曲の歌唱法を分析したいと考えている。

参考資料

猪塚元・猪塚恵美子　2003年　『日本語音声学のしくみ』研究社。
後藤暢子　1995年　「山田耕筰」『ニューグローブ世界音楽大辞典　第18巻』講談社、pp.528-531。
斎藤純男　2014年　『日本語音声学入門』改訂版　三省堂。
高見澤孟　2015年　『新・はじめての日本語教育　基本用語辞典』アスク出版。
松村明　2006年　『大辞林第三版』三省堂。
山田耕筰　1950年　『山田耕筰名歌曲全集　第1巻』日本放送出版協会。

参考Web資料

Dual大辞林特別ページ「日本語の世界　日本語の音」
＜http://daijirin.dual-d.net/extra/nihongoon.html＞2015年２月６日13時52分受信。

[7]通常は口腔を通って発音されるが、軟口蓋（口蓋帆）を下げて鼻腔への入り口を広げ、鼻腔へ呼気を通して［m］［n］［ŋ］のような鼻音を作ることを鼻音化という。